

## 令和2年度より管理を開始した横瀬川ダムが効果を発揮

～令和3年7月洪水における中筋川の治水効果について～

- 令和3年7月16日の夕方からの降雨は、中筋川ダム上流域では累計372mm<sup>※1</sup>、横瀬川ダム上流域では累計397mm<sup>※2</sup>を観測しました。  
※1:7月16日16時～18日14時（時間最大68mm・18日9時）  
※2:7月16日17時～18日16時（時間最大69mm・18日11時）
- この降雨により、中筋川は下流の磯ノ川地点で、ピーク水位7.93mを記録し、避難判断水位（7.40m）を超える出水となりました。
- 中筋川ダムでは最大流入量の約79%をダムで貯留し、横瀬川ダムでは最大流入量の約80%をダムで貯留しました。
- ダムがない場合には、磯ノ川地点で約1.4mの水位が上昇していたものと推定されます。中筋川ダム及び横瀬川ダムの2ダムの洪水調節によって、氾濫危険水位超過を回避しました。
- 内水氾濫により、床下浸水や路面冠水があったものの、2ダムの効果により浸水被害を軽減できました。
- 今回の洪水は、横瀬川ダムが無い場合に推定される磯ノ川水位が、平成16年10月洪水（水位観測史上第3位）と同規模と推定されますが、浸水被害は著しく減少しており、令和2年より管理を開始した横瀬川ダムの洪水調節による効果が大きいと考えられます。
- 中筋川左岸楠島地区等において、内水被害を軽減するため排水ポンプ車や排水機場による排水作業も実施しました。

※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

※本発表は、四国圏広域地方計画広域プロジェクト【No.1 南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト】に該当します。

令和3年7月21日

国土交通省 四国地方整備局

中村河川国道事務所・渡川ダム統合管理事務所

## 問 い 合 わ せ 先

### ◆中筋川に関する問い合わせ

国土交通省 四国地方整備局 中村河川国道事務所

電話（０８８０）３４－７３０１

副所長 岡林 福好 内線（２０４）

◎計画課長 宮地 憲一 内線（２６１）

### ◆中筋川ダム・横瀬川ダムに関する問い合わせ

国土交通省 四国地方整備局 渡川ダム統合管理事務所

電話（０８８０）６６－２５０１

所長 三宅 和志 内線（２０１）

◎管理課長 渡辺 雄二 内線（３３１）

# 中筋川ダムと横瀬川ダムの効果(高知県・渡川水系中筋川)

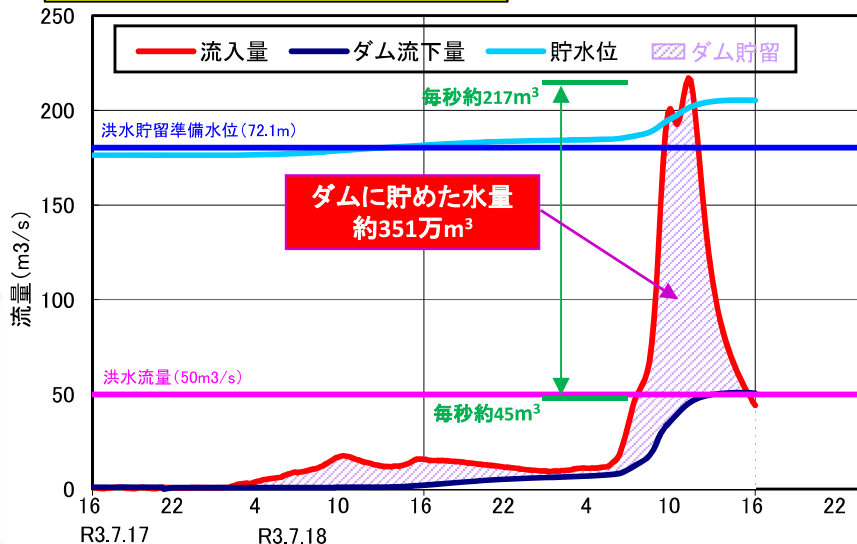
- 令和3年7月16日の夕方からの降雨は、中筋川ダム上流域では累計372mm※1、横瀬川ダム上流域では累計397mm※2の降雨を観測。
- 中筋川ダムでは最大流入量の約79%をダムで貯留し、横瀬川ダムでは最大流入量の約80%をダムで貯留。
- ダムがない場合は、磯ノ川地点で約1.4mの水位が上昇していたものと推定される。中筋川ダム・横瀬川ダムの2ダムの洪水調節によって、**氾濫危険水位超過を回避**した。

※1:7月16日16時~18日14時(時間最大68mm・18日9時)、※2:7月16日17時~18日16時(時間最大69mm・18日11時)

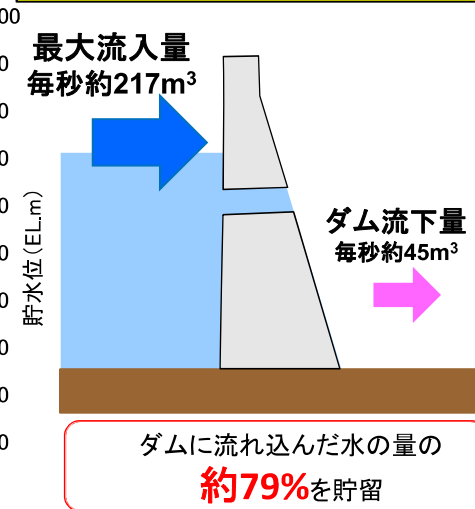
### 渡川水系中筋川流域図



### 中筋川ダムの洪水貯留状況

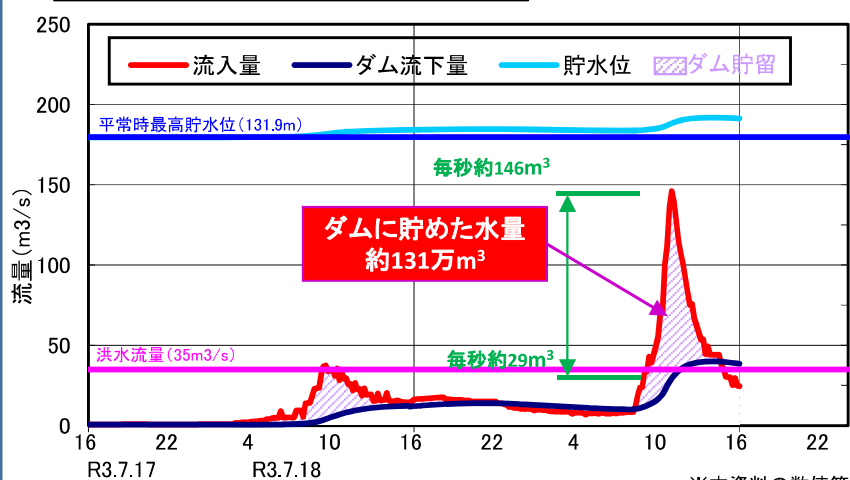


### 最大流入時の中筋川ダム

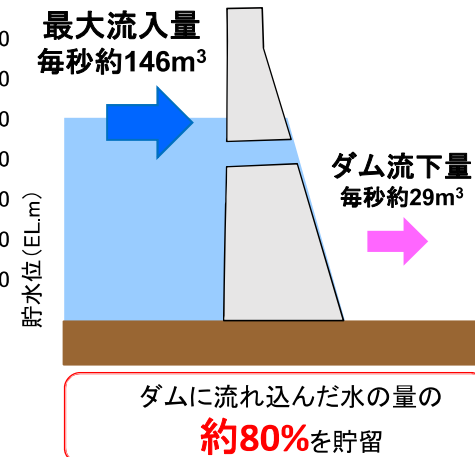


ダムに流れ込んだ水の量の約79%を貯留

### 横瀬川ダムの洪水貯留状況

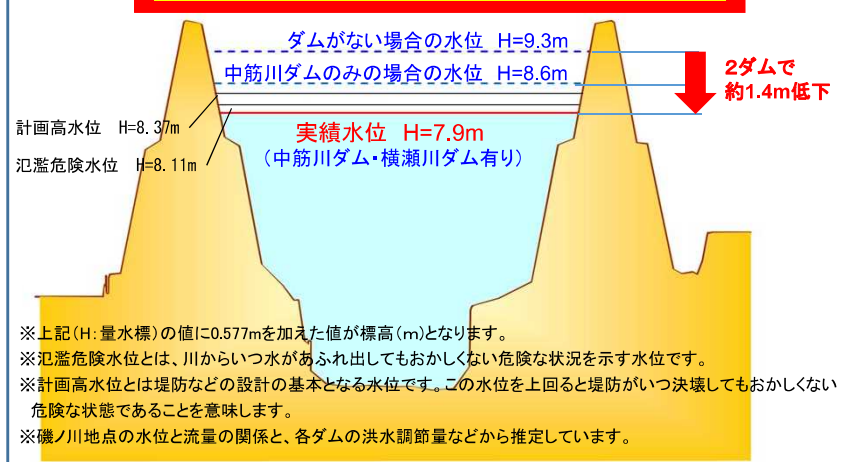


### 最大流入時の横瀬川ダム



ダムに流れ込んだ水の量の約80%を貯留

### 中筋川ダム・横瀬川ダム2ダムにより 計画高水位水位及び氾濫危険水位超過を回避



※上記(H:量水標)の値に0.577mを加えた値が標高(m)となります。  
 ※氾濫危険水位とは、川からいつ水があふれ出してもおかしくない危険な状況を示す水位です。  
 ※計画高水位とは堤防などの設計の基本となる水位です。この水位を上回ると堤防がいつ決壊してもおかしくない危険な状態であることを意味します。  
 ※磯ノ川地点の水位と流量の関係と、各ダムの洪水調節量などから推定しています。

※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

# ダムの貯留状況

## 中筋川ダム



貯留前 EL=70.55m (16日15時00分)



今回洪水による貯留量  
約351万m<sup>3</sup>

貯留後 最高貯水位EL=82.18m (18日15時00分)

## 横瀬川ダム



貯留前 EL=131.82m (16日9時50分)



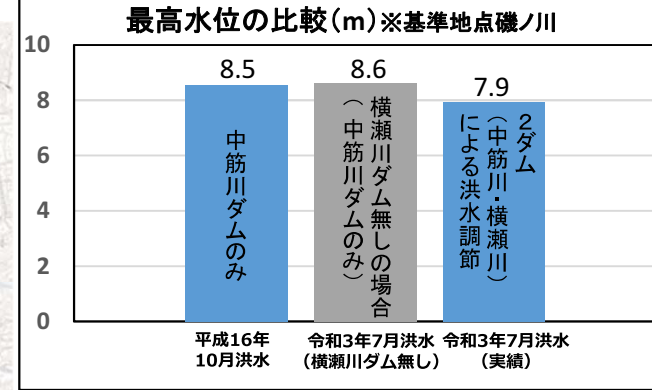
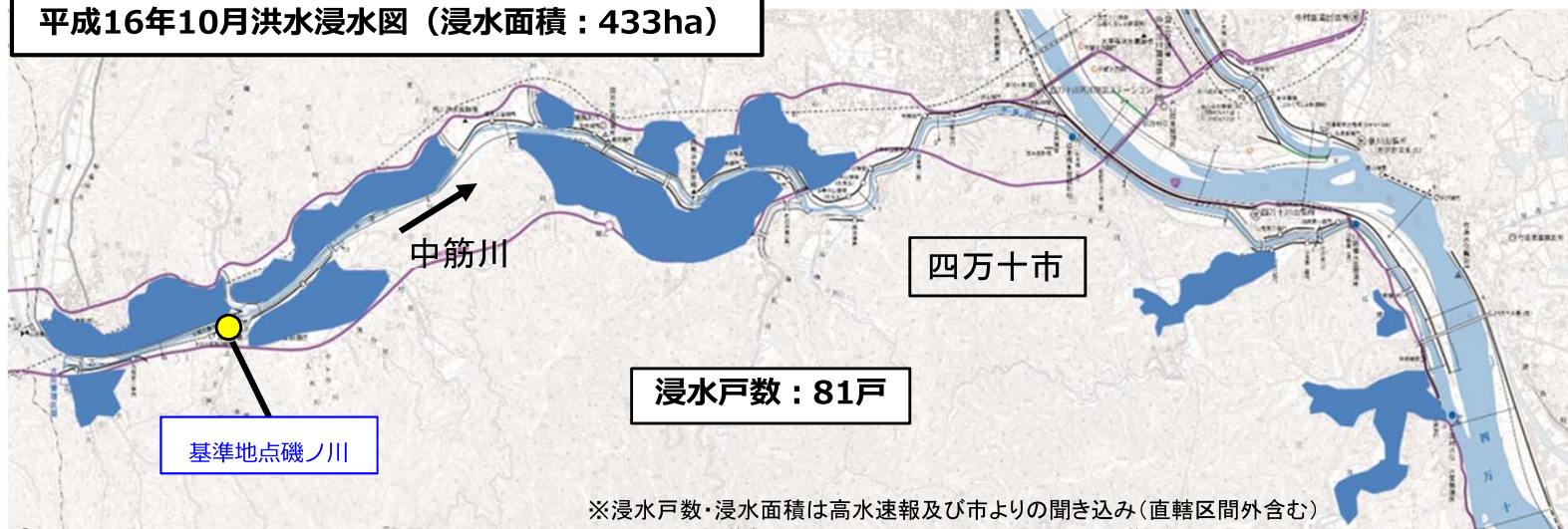
今回洪水による貯留量  
約131万m<sup>3</sup>

貯留後 最高貯水位EL=136.75m (18日14時00分)

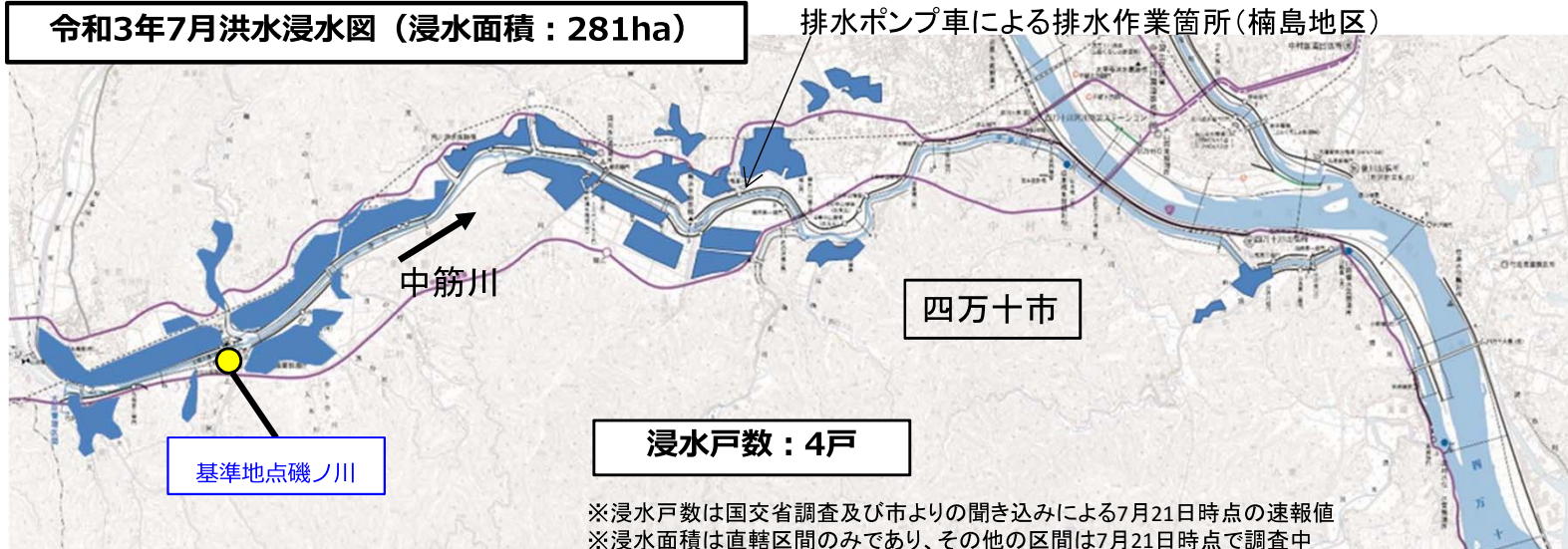
# 浸水面積の軽減

- 今回の洪水は、横瀬川ダムが無い場合の水位と比較すると平成16年10月洪水（水位観測史上第3位）と同規模。
- この横瀬川ダムが無い場合に推定される磯ノ川水位が、平成16年10月洪水と同規模と推定されるが、浸水被害は著しく減少しており、令和2年より管理を開始した横瀬川ダムの洪水調節による効果が大いと考えられます。
- また、中筋川左岸楠島地区等において、内水被害を軽減するため排水ポンプ車や排水機場による排水作業も実施した。

平成16年10月洪水浸水図（浸水面積：433ha）



令和3年7月洪水浸水図（浸水面積：281ha）



写真：楠島地区(清水樋門)における排水ポンプ車(150m<sup>3</sup>/min)による排水作業